【事例 H29-34】 佐賀県

ＳＯＳの出し方（自殺予防）教育

【概要】児童生徒の時からいのちや人権について学んでもらえるよう、また、生活上の困難やストレスに直面した時の対処方法やＳＯＳの出し方を学ぶ機会とする。併せて、児童生徒が発信するＳＯＳのサインに気づき、接し、繋ぐ側（保護者や教職員）への教育も行う。多久市が「ＮＰＯ法人さが子どもにやさしいまちづくりセンター」に委託をし、ＣＡＰプログラム（子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力などのさまざまな暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラム。子どもたちが安心・安全に成長していくためになくてはならない大切な３つの権利「安心」「自信」「自由」が奪われそうになったら何ができるかを子どもに伝えＳＯＳを出しやすいきっかけを作る。そして、子どもたちのＳＯＳをキャッチする教職員、保護者などの大人にも伝え、共に考えていくもの。）を実施。市内義務教育学校３校の４年生及び７年生（中学１年生）・保護者・教職員に実施。ワークショップ実施後、ＳＯＳ表出があったケースについては学校、福祉課、健康増進課の３者で共有し、虐待関連主幹及び地区担当保健師が役割分担し、ケース支援を行う。

【大綱の分類】
２．国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
４．自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る
５．心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
６．適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
７．社会全体の自殺リスクを低下させる
10．民間団体との連携を強化する
11．子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージの分類】
基本１．　地域におけるネットワークの強化
基本５－１）ＳＯＳの出し方に関する教育の実施
基本５－２）ＳＯＳの出し方に関する教育を推進するための連携の強化
基本２－３）自殺対策を支える人材の育成（学校教育・社会教育に関わる人への研修）
重点１－１）いじめを苦にした子どもの自殺の予防
重点１－２）若者の抱えやすい課題に着目した学生・生徒等への支援の充実

【事業実施年度】2018 年度事例（2010 年度～2019 年度）

【事業予算】　532,000 円（2018 年度）

【利　点】

▼ 子どもが安心、自信、自由を守ることについて学び、自己肯定感を高めることができる。
▼ 自分自身や周囲への気配りを知ることによって、いじめや自殺の予防に繋がる。
▼ 困難やストレスに直面した児童生徒が信頼できる大人に助けの声をあげられる。
▼ 直接子どもと接したり相談にのったりする親や教職員を、気づき、見守り、適切な繋げ先につなぐことができる人材に養成する。

【実施に至るまで】

背景と必要性

① 多久市の過去１０年間データでは、児童生徒の自殺はない。しかし、２０１５年度には１０代後半～２０代の若者の自殺もあった。
② 子どもの時から自分を大切な存在だと思う感覚（人権意識）を育むことで、いのちを守る行動がとれる大人になってほしい。
③ 教職員や保護者など地域の大人が、必要な知識やスキルを共通認識し、気づきを持てるようになることでいじめ防止や虐待予防にもつながっていく。

計画を立てる上での工夫

① ２０１０年度から７年生と教職員や保護者など地域の大人を対象にＣＡＰプログラムを実施している。２０１８年度から、児童生徒の対象を４年生も追加した。（縦の関係から横の関係を重視する頃であり、他者を認め自分を振り返ったり見つめたりする能力が発達し、家庭や学校における人間関係を理解しようとする重要な時期であるため）
② 思春期保健連絡会（多久市健康増進課と教育委員会の主催で市内義務教育学校及び高校養護教諭らとの連絡会議を年１回開催）にて事業打ち合わせを行っている。
③ 生徒については、学校の授業に組み込んでもらっている。保護者については、各学校ごとＰＴＡ行事や集まりの機会を利用し、できるだけ多くの保護者に聞いてもらえる日程で実施。教職員も各学校ごとに実施し、調整しやすい環境で行っている。
④ 一方的な研修形式ではなく、ワークショップ形式で学年や対象によって内容も少しずつ違っている。いじめや性暴力などをテーマにした役割劇を見て、話し合いをしながら行動の選択肢を考える。また、信頼できる大人に相談するロールプレイやトークタイムを設け、発達段階に応じてわかりやすく工夫されたものである。
⑤ あくまで自殺予防を全面に出すものではなく、「こころとからだを守る方法を身につける」ことを目的と位置付けている。
⑥ ワークショップ後、ＳＯＳの表出があった気になるケースについては、委託先からの情報を共有し、連携体制がとれるようにしている。

具体的な内容

▼ 子どもワークショップは１クラス単位で連続２校時（９０分）実施。
▼ 事前打ち合わせでは、委託先と学校担任・養護教諭で配慮したほうがいい児童を確認。
▼ ワークショップ後にアンケート（気持ちを落ち着ける）、委託先スタッフとの個別トークタイム（大人と話す練習）の時間を設定。
▼ 終了後、委託先スタッフと学校関係者と振り返りの時間を設定。
▼ 子どもたちのアンケートは、後日学校より健康増進課に提出し、気になるケースについては委託先から福祉課へ報告をもらい、関係部署で共有している。
▼ おとなワークショップは９０分～１２０分。
▼ 保護者ワークショップでは、子育てのコツ（声かけの方法やＳＯＳの受け止め方）を紹介。
▼ 教職員ワークショップでは、学校で大人ができる対応や連携の方法を紹介。

【成　果】

▼実績

年度	子ども		保護者		教職員	
	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者
２０１７	５	１５６	３	７６	３	６３
２０１８	１１	２８７	３	８１	３	７７

▼ 子どもたちのワークショップ後のアンケートを見ると、自己肯定感が持てた内容であったり、助け合いの気持ちが表れたり、困った時は相談するという手段が分かった、と前向きな表出が見られている。
▼ 一方、トークタイムの際には生徒より気になる内容やＳＯＳの表出があり、経過を観ていくケースとしてつながっている。

【課　題】
▼ ワークショップ後に出てきたＳＯＳ表出で、気になる存在として知ることができても、家庭環境の困難さがあり、なかなか解決に向かわないケースもある。
▼ 保護者ワークショップについては、ＰＴＡ行事などと抱き合わせで行っているが、参加して聞いてほしい家庭の保護者の参加が得られなかったり、課題は残る。

【事業種別】	児童生徒のＳＯＳの出し方に関する教育
【準備期間】	委託手続きにかかった日数：５日くらい
【人　　数】	関与した職員数：３人（保健師１人、増進課事務１人、福祉課１人）
【人口規模】	多久市：19,168 人（2017 年 10 月 1 日推計人口）
【財政規模】	￥12,292,113,000（2017 年度）
【自治体負担率】	66.6%
【事業対象】	小学生、中学生、保護者、学校教諭
【支援対象】	小学生、中学生
【委託の有無】	有
【実施主体・問合せ先】	多久市役所　健康増進課 TEL：0952（75）3355 Mail:kenkozoshin@city.taku.lg.jp

【参考資料・文献】　特になし